

ほっけもん

349 靴化がない!



大崎短歌会

兼題『梅雨・自由』

想い出せぬ約束の日がある如く
梅雨空に遅き山吹の咲く
かえる鳴く又長い梅雨ジメジメの
時期の到来無事に災なく
五月雨の木戸口に咲く紫陽花の
いろどり嬉し人ら集いぬ
照もせず曇りも果ぬ梅雨の空
国見の岳に霞かかりて
しとど降る夜来の雨よ不運なる
簾の経緯新聞に待つ
せせらぎに虫啄みて戯る
羽のばす鳥 災い無きと
梅雨近き便りかあじさる萌ゆる庭
思ひ出の粒あまた集えり

山下海征
川崎健一
栢山重子
実吉安仁
上南紀子
井元かず子
馬場みさ

薩摩郷句

兼題『バス』

梅雨晴間若葉青葉の照り返し
農衣乾けり風にゆらぎて
待ちわびしゆうべの雨に芽生えたる
オクラの双葉愛しみ見つむ
本後淑子
穂園芳江
手を上げりや 何処でん停車まい 過疎んバス
(唱) 我が家ん前で びしゃっ止まらせつ 井上三ちゃん
惜し 命つ飲んだだ バスん事故
(唱) 親あたまらん 大事な一人息子 西ノ園ひらり
バス旅行 芸者が多し わぜ弾ん
(唱) バスもゆらゆら 大笑れが響つ 佐藤ぼつけちゃん

亭主あ焼酎 女房あバス酔い 一日で旅行

(唱) 亭主な良か調子 女房あげえげえ 北村虎王

客か一人 貸し切バスじゃ 田舎旅

(唱) 一人じゃとても 元は取るいめ 遠矢耐多

今日は遠足 リュックも燥つ 通園バス

(唱) 一杯詰めた おやつも揺れつ 諸木小春

キャッシュレシ バス乗い本当ち 狼狽ろつ

(唱) 小銭ぬ沢山 持ってきた婆様 上窪小絵

バスん旅 ガイドが親爺ず 手玉め取つ

(唱) 歌とえ踊れち ガイドが命令 上村牛歩

バスツアー 乗れば焼酎飲ん 歌も出つ

(唱) 景色も見らじ 即きな大騒動 二見愚楽満

婦人会 バスん旅行どが 懐かしゆし

(唱) 記念写真ぬ 眺めつ大息 満石うらら

バスに乗つ 料金が気になつ ひん疲れつ

(唱) 借い人も無し 心配困憊 長重リリー

知つちよれば 乗らせんかった 運転歴

(唱) 年中事故した 事ども知たじ 中尾亜痛世